

2022年度 第45回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2023/3/30】

B3位

エス水球クラブ 2

0	—	1
1	—	5
1	—	4
0	—	3

13 石川イーグルス

PSO

審判： 南 隆尚
御崎 智徳

エス水球クラブ	26	SH数	28	石川イーグルス
	0	速攻数	7	
	8	ST・SB	10	
	4	SH・P誘発アシスト	16	
	28%	GK阻止率	86%	
	4	EX反則数	4	

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
エス水球クラブ	145	66	19	35	45	45	24	18	45	41.6%

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
石川イーグルス	103	43	16	21	34	42	16	9	32	43.9%

【試合の流れ】

今大会で大きく成長したのがエス水球。厳しい試合を高速パス展開で相手を翻弄して、粘り強さも出るようになった。対する石川は桃太郎カップでは逆転勝利した群馬戦でリベンジを許し、この3位決定戦に回ってきた形。石川のセンター**⑥**水浦をエス水球がしっかり抑え、左右に高速でパス展開できればエス水球に勝機が出てくるだろう。

1P

序盤はラリーが続いていたが、石川**③**前田が**④**松野にジャストパスを出し、ペナルティを誘発。そこを**⑤**中村が落ち着いて決め、石川が先制。これがこのピリオド唯一の点となった。双方、シュートまでは行っているが、エス水球は石川GK**①**三谷の指先ギリギリのセーブやポストに阻まれ、上手く枠内を捉えることができず、エス水球0-1石川で第1ピリオド終了。

2P

点差を広げたい石川は**⑥**水浦の退水シュート、**⑤**中村がセンターからシュートを決め、連続得点で着々と点差を広げた。対するエス水球は**②**秋田がセンターで退水を誘発し、アーリーの退水オフェンスを仕掛け、**④**稲垣がワンタッチで得点し追撃態勢に入った。しかし、攻撃力に勝る石川は相手のシュートミスやパスミス、攻撃時の反則から優勢に試合運び、チャンス場面でのシュートも的確に決めて、エス水球1-6石川と点差を広げて前半を折り返した。

3P

エス水球は**④**稲垣を中心に点差を詰めるべく、怒涛の攻撃を仕掛けるが、石川の固いディフェンスに阻まれる。特にGK**①**三谷が好セーブを連発し、主導権を渡さない展開となった。双方、激しい攻防の展開だったが、石川のGK**①**三谷を中心としたディフェンスからカウンター攻撃やセンター攻撃等、多彩な攻撃を仕掛けて石川が加点し、エス水球2-10石川と試合内容の割には得点差がついた状態で第3ピリオド終了。

4P

石川**⑤**中村のジャストパスを**④**松野が受け取ると、フェイクを挟んで強烈なシュートを決めて9点差。さらにGK**①**三谷のセーブから**④**松野が抜け出し、点差を広げた。エス水球も懸命に攻撃するが、繰り返し石川GK**①**三谷のセーブやフィールドアのシュートブロックで得点を阻止され、ゴールをこじ開けることができずそのまま、試合終了。この試合、石川GK**①**三谷が12セーブと躍動し、エス水球2-13石川イーグルスと思わぬ大差がついて、石川が3位に輝いた。

エス水球のシュート本数では石川と拮抗したが、エス水球が得意とする速攻場面が皆無と、完璧に石川にディフェンスされたことが勝負を分けた形。桃太郎カップで決勝進出した石川に、試合経験の差を見せつけられた結果となった。